

つる かい い せき 鶴 飼 遺 跡

現地公開資料

今回の発掘調査は、国道4号渋民バイパス建設事業にともなう緊急発掘調査です。工事により遺跡の一部が消滅するため、事前にその内容を記録し将来に残すことを目的として行われました。

【調査要項】

事業主体	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	調査面積	4,874 m ²
事業名	国道4号渋民バイパス建設	調査期間	平成23年9月5日～10月31日(予定)
所在地	盛岡市玉山区渋民字鶴飼 47-15 ほか	調査機関	(公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター

今回の発掘調査で、鶴飼遺跡が次のような遺跡であることがわかりました。

① 縄文時代後期には、尾根上に集落が営まれていました。

狭い尾根から竪穴住居が4棟分見つかりました。



竪穴住居

竪穴住居は楕円形で、大きさは直径4～5mほどです。竪穴の内部には、石を並べて作った炉（石囲炉）があります。炉の据えられた位置は竪穴の中央ではなく、どの住居でも北東側に寄っています。



ろ いしがこいろ 炉 (石囲炉)



ある住居の内部には、床を掘りくぼめて土器が埋められていました。

② 縄文時代のある時期（集落廃絶後）には、狩り場として利用されていました。



斜面谷部で
見つけた土坑

斜面谷部に沿って、
溝形と円形の土坑が並
んで見つかりました。
(溝形 11 基・円形 14 基)
これらは、陥し穴と考
えられるものです。

※三角印が土坑の見つかった場所

土坑は下の写真のような形をしています。



溝形 (左：平面、右：断面)
長さ約 3 m、深さ約 1.5mほ
ど、底の幅は 10 cmに満た
ないものもあります。い
ずれも長軸が傾斜に直
交しています。

円形 (左：平面、右：断面)
底の直径は 1 mほどで、
深さは最も深いもので
1.8mです。
写真の土坑は、中央に
杭を刺した穴が開いて
います。



以上のように、鶴飼遺跡では縄文時代後期に集落が営まれ、その後は狩り場として使われていたことがわかりました。より詳細な内容は今後の整理作業で明らかにしていく予定です。